

平成26年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立西院中学校)

1 平成26年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成 2. 豊かな心の育成 3. 健やかな体の育成 4. 学校独自の教育

2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理			
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	自己評価		学校関係者評価	
				評価日	平成26年8月26日	評価者・組織	学校評議会委員会
1 確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る教育 言語活動を取り入れた授業改善	・朝読書の完全定着と毎月の読み聞かせ実施 ・年三回の研究授業の実施 ・各教科での言語活動の充実 ・各教科で発表会等の双方での言語活動	・全国学習状況調査の「読書は好きですか」「400冊詰め原稿用紙2~3枚に書くことは難しい」 ・各教科での言語活動の充実 ・各教科で発表会等の双方での言語活動	⇒ ・読書好きな生徒の割合は80% ・「難しいと思う」の生徒の割合は全国が40%に対して本校は23.5% ・「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の生徒の割合は全国が75.3%に対して本校は87.8% ・「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の生徒の割合は61.2% ・「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の生徒の割合は61.2%	・地道な毎日の朝読書を含め様々な言語活動により、生徒間の相互意見交換が活発な授業展開ができる。 特に、国語・数学の教科に限らないが、B問題に対する効果が出てきている。 特に、国語・数学の教科に限らず、学習でも取り組めるようになってきている。 しかし、「家庭で復習している」生徒の割合が26.5%で30%にも達していない。	・授業の中で仮説を立てたり、その根拠や結論づけた理由を述べるような取組をさらに充実させる。 ・予習の出し方・量について工夫・検討して、先行学習を定着させ、習得から活用までをめざす。	⇒ ・落ち着いた環境で学習を取り組めているように感じる。 ・きめ細かな教育をするためには、現状の教職員数は十分なのかどうか質問。 ・「西院の子は西院で育てる」という気運を絶やさず、学力の土台作りにつながる取組(読み聞かせや地域と連携した総合的な学習など)の支援をより活性化していきたい。
2 豊かな心	人権を尊重する心の育成 学校規律の醸成 自己有用感を感じさせる取組充実	・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の工夫 ・毎朝の全員登校によるあいさつ・声かけの取組 ・G(リース)・G(リース)H(ハートハート)活動の取組 ・全教育活動に於いて生徒による自主企画・自習運営による手法の徹底	・全国学習状況調査の「総合的な学習の授業で学習したこと、普段の生活に役立つか」「じめじめはどんな理由があつてもいいことだと思う」 ・全国学習状況調査の「学校の規則を守っていますか」 ・全国学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」	⇒ ・どちらの質問事項でも、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の生徒の割合は全国と比べて高いことや、「地域や他人の役に立つ人間になりたい」と思っている生徒の割合が高いことなど、取組の成果が見られる。 ・生徒の自主企画・自主運営による様々な活動を通して、クラス・学年・級割り集団等でのまつりが、本校の中にできている。	・「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える生徒の割合は、全国よりも若干高い。 ・「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の生徒の割合は全国よりも若干高い。	・さらに意義をしっかりと持たせた体験活動やPTA・地域との協働活動で感じたことを、自らの言葉で表現する場を充実させる。 ・規範意識の醸成については、生徒会活動と連携・マナー向上へ向けた取組をすみめる。	⇒ ・生徒や保護者のアンケート結果を見ても、良い結果である。しかし、学校として内包されている問題点などについての課題はどうか、学校が気になることはないのか。 ・生徒は、本当に気持ちの良い挨拶をしてくれる。
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立 運動する機会の充実と体力向上	・早寝・早起きや携帯・スマートホンの弊害についての呼びかけ ・生徒全員入部制の部活動の充実 ・学年スポーツなど企画	・全国学習状況調査の「どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで電話やメールをしますか」 ・部活動参加状況の結果	⇒ ・「4時間以上」が生徒の割合は16.3%と全国より高い ・運動部だけでなく文化部を含む入部率は100%	・朝のスタートを気分良く始めることができている割合について90%以上を目指したい。 ・体を動かすことが好きな生徒の割合は高まっている。 ・体育的行事についても、生徒による自主企画・自主運営の手法を使い意欲的に取り組めるようにしていく。	・保健室だよりや学級だより・学校だより等でも積極的に健康的な生活について啓発する。また、教職員全員による朝の挨拶や声かけは大切にしていく。 ・スマートフォンの弊害は認識しているが、まったく利用させないのはなかなか難しい。	⇒ ・おおむね小中学校の連携はとれている。 ・地域との連携、協働といふ意味でも、小中学校ともにホームページを頻繁にアップしており、学校運営協議会や長い伝統を持つ西院青少年育生連絡協議会から、学校への様子がよくわかる。しかし、ホームページには、功罪があり、ホームページだけに偏った発信には、気をつけてほしい。
4 独自の取組	小中一貫教育の推進 家庭・地域・学校(保幼小高)との連携 キャリア教育(国際理解教育含む)の充実	・小中合同授業研修会の実施 ・西院アカデミーの実施 ・西院ふれあいコンサート(保・幼・小・中・地域参加)の実施 ・校区の保健園・幼稚園を招いたコンサートの実施 ・西院ふれあい祭りへの参画 ・莫文化理解・国際理解教育の充実	・小中合同研修の実施 ・実施形態について ・異文化を理解し姉妹校へ作品を送ったり、ハングルで自分の気持ちを伝えたりした	⇒ ・「それぞれ地域と校区の学校が、連携して実施」 ⇒ ・地域が一緒に育ててもらっているという意識を持っています ⇒ ・韓国姉妹校との交流学習(総合的な学習の時間)	・「小中の授業内容を多岐にし、それぞれの発達段階に応じた工夫を理解した上で、意見交換をすることができた」という声が多かった。 ・保幼小中連携について90年の義務教育だけでなく、校種を超えてとても「この歳から15歳までの地域の子どもを教育することができる」。 ・韓国姉妹校との交流学習(総合的な学習の時間)	・小中学校の教諭の業務発令や英語活動の連携などをきっかけにさらに小中一貫教育を進めさせてきた。 ・本校独自の西院小中学校運営協議会や長い伝統を持つ西院青少年育生連絡協議会から、学校への意識や意見や評価を行ってもらえるような情報発信を行い、学校教育に生かしていく。 ・西院保幼小中連携項目「目指す子ども像」ポスター	⇒ ・小・中学校同士の連携に限らず、保護者、地域も学校と連携していきたい。 ・発信についても、顔と顔を合わせた直接的な協力関係や連携を楽しんでいきたい。